2021年11月21日（日）掲載 読売新聞社 転載許諾済

病院の実力 ～神奈川編 162

前立腺がん

後遺症 理解し治療検討

今回は、前立腺がんを取り上げる。国立がん研究センターの最新の発表では、年間新規患者数は推計約9万5000人で男性のがんの中で最も多い。一方で、10年生存率は98・7％と全がんの中で最も高い。

がんが前立腺の中にとどまっていれば、手術でも放射線治療でも根治が期待できるだけに、治療を検討する際は、後遺症をよく理解することが重要だ。

手術は前立腺を全摘するのが基本だ。下腹部に小さな穴を複数開けて行う腹腔鏡手術が普及しているが、手術後には尿漏れが起きたり、性機能障害が残ったりしやすい。

放射線治療では、主に、体の外からがんに放射線を照射する「外照射」と、放射性物質の入った小さなカプセルを前立腺に埋め込み、内側から照射する「永久挿入密封小線源」がある。

外照射に伴う副作用としては、短期的には頻尿や血尿などが、長期的には慢性膀胱炎や直腸炎による出血などがある。永久挿入密封小線源でも頻尿などが起こりやすい。

がんが骨に転移した場合などは、男性ホルモンの分泌を薬で抑える「ホルモン療法」を検討する。

前立腺がんは、比較的進行のスピードが遅いので、がんが小さく、悪性度が低ければ、定期的に血液検査を受けながら、経過観察を続ける「監視療法」を選ぶ場合もある。

進行、生活応じた選択肢

済生会横浜市東部病院
石田勝 前立腺治療センター長

前立腺がんは、進行段階やライフスタイルなどに応じて、複数の治療法から選択できるのが特徴だ。他のがんよりも「5年生存率」は高いが、その分、長年つき合っていかなければならない病気と言える。

当院は全国でも珍しく、大きく分けて3種類の治療法を用意している。

一つ目は、最先端の手術支援ロボット「ダビンチ」を使った病巣の摘出手術。術後の痛みが小さいといったメリットがある一方、後遺症として尿失禁になることがある。

二つ目は、ピンポイントで照射する「サイバーナイフ」を用いた外部からの放射線治療。通常より少ない通院で治療を終えることができる。デメリットとしては、頻尿の副作用が考えられる。

三つ目は、微弱な放射線を出す小さな線源を前立腺の中に挿入する「密封小線源治療」だ。病巣の近くから照射するため高い治療効果がある反面、こちらも頻尿の副作用がある。

男性ならば誰でもなり得る病気で初期症状は基本的にない。現状では具体的な予防法もないとされる。

ただ、「PSA検査」という血液検査で簡単に見つけられる病気でもある。自治体の健診か、特別に医師に依頼する必要があるが、早期に発見できれば、救命率が高まるのはもちろん、治療法の選択肢が増える。自分に合った治療を適切に受けるためにも、症状の有無にかかわらず、早め早めの検査をしてほしい。

病院の実力「前立腺がん」
医療機関別2020年治療実績
（読売新聞調べ）

医療機関名	手術（件）	放射線治療 外照射（件）	放射線治療 永久挿入密封小線源（件）※外照射との併用含む
県立がんセ	166	441	—
大船中央	0	232	37
横浜市大病院	126	37	103
北里大	86	39	87
東海大	127	121	0
済生会横浜市東部	113	70	42
横浜労災	108	66	0
湘南藤沢徳洲会	48	105	—
帝京大溝口	128	24	0
新百合ヶ丘総合	101	25	0
横浜南共済	68	42	0
横須賀共済	109	0	0
横浜市立市民	32	55	0
市立川崎	62	15	0
藤沢市民	56	18	0
横浜市大市民総合医療セ	24	49	0
川崎幸	14	56	0
横浜市立みなと赤十字	56	13	0
昭和大横浜市北部	2	62	3
湘南鎌倉総合	23	39	1
横須賀市立うわまち	14	47	0
けいゆう	22	37	0
大和市立	10	39	0
海老名総合	45	—	—
昭和大藤が丘	6	35	0
川崎市立井田	35	0	0
厚木市立	27	11	0
茅ヶ崎市立	35	3	0
横浜栄共済	7	30	0
国際親善総合	33	0	0
小田原市立	4	24	0
平塚共済	7	17	0
平塚市民	1	23	0
済生会横浜市南部	17	4	0
藤沢湘南台	12	—	—
川崎市立多摩	1	—	—

「セ」はセンター、「—」は無回答または不明

全国の調査結果は17日の「安心の設計面」に掲載しました。